

# 特別公開Ⅱ

## 璉城寺

(れんじょうじ)



### ①歴史・概要

璉城寺は、古代の豪族紀氏の氏寺・紀寺の後身といわれ、璉城寺の境内周辺から、奈良時代前期の古瓦が出土しています。

璉城寺の寺伝には、奈良時代に聖武天皇の勅願、行基菩薩の開基とされ、平安時代に入って、紀有常が伽藍を整えたとあり、「土佐日記」で有名な紀貫之らの氏寺でしたが、当時の面影は伝わっていません。現在の境内は、明治維新以後衰微した後に整備されたもので、本堂の前庭にはニオイバンマツリ、大山蓮華、アジサイなど四季折々の花が咲き、温かい雰囲気を感じられます。

### ②見どころ

本堂に安置される阿弥陀如来立像（県指定文化財）は、木造白色の裸形像で絹織物の御袴をつけておられるのが特徴です。寺伝では、恵心僧都源信が光明皇后をモデルとして制作されたといわれますが、実際は鎌倉時代ごろの作と考えられています。脇侍の観音菩薩像、勢至菩薩像（ともに重要文化財）とともに秘仏で、毎年5月のみ開扉されます。



### 御袴

その昔、ご本尊阿弥陀如来立像は秘仏として50年に一度、御袴を取り替えるときだけの開扉でした。今も50年毎に御袴を取り替えられており、現在の御袴は、平成10年に取り替えられたものです。今回の展示では、昭和23年から平成10年まで身につけられていた絹の御袴を見学することができます。西陣織で、瑞鳥などが美しく織りだされています。

御袴  
瑞鳥などが美しく織られている